

神経研究所 (NIN)

神経細胞突起形態制御の解析から病態へ

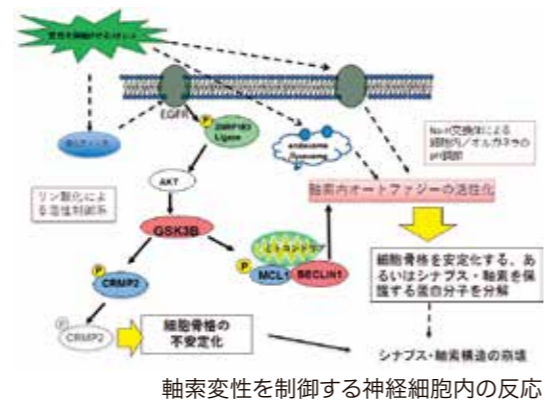
疾病研究第五部
部長 荒木 敏之

National Institute of Neuroscience

神経細胞は、他の細胞との間で情報伝達を行うための長い突起を有し、この特徴的な形態の形成・維持のメカニズムは神経系の発達・回路形成や記憶学習などの神経活動に重要であるだけでなく、発達障害、神経変性疾患の病態機序にも重要な寄与があります。

疾病研究第五部は、この神経細胞の突起形態の制御機構の理解を通して、自閉症類縁疾患などの発達障害・筋萎縮性側索硬化症やアルツハイマー病などの神経変性疾患の病因・病態の理解と治療法開発に寄与することを目指しています。2023年度からは、軸索変性の抑制による神経保護的疾患治療のための化合物開発に関して製薬企業との協業を開始し、

薬としての実用化を目指した研究にも注力しています。軸索変性は中枢・末梢神経で共通する機序で進行すると考えられており、軸索変性抑制は多様な神経疾患への適用の可能性が期待されます。



政策・疫学研究を通して
精神健康増進に貢献する

公共精神健康医療研究部では、精神疾患からの回復や精神疾患の予防等を目的とした幅広い研究活動を行っています。当部が伝統的に携わってきた政策研究として、全国の精神病床をもつ医療機関、行政機関等との幅広い協働によって毎年実施しているモニタリング研究があります。2021年度からは厚労省の事業でNCNPが受託した「心のサポーター養成事業」を事務局として運営し、これまでに7200人以上の心のサポーターを養成しました。また、COVID-19感染後の心身への中長期的影響を検討する疫学研究や、精神医療を提供する支援者の質の向上という観点から精神科医療機関の看護師を対象としたトラウマ

インフォームドケア研修の効果を検討する研究も実施しています。これらの活動を通して、精神疾患の有無や程度にかかわらず誰もが暮らしやすい社会の実現に貢献したいと考えています。



公共精神健康医療研究部
部長 西大輔

精神保健研究所 (NIMH)

National Institute of Mental Health

NCNP 診療ニュース

ごあいさつ

新年、
明けましておめでとうございます。

2024.1
Vol.38



診療科紹介

ゲノム診療部

各部門紹介

身体リハビリ
テーション部
精神リハビリ
テーション部

専門疾病センター紹介

認知症
センター
睡眠障害
センター

活動紹介

神経研究所
精神保健研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.38 2024年1月発行
国立精神・神経医療研究センター病院 発行責任者：病院長 阿部康二
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

新年、 明けましておめでとうございます。



病院長
阿部 康二

2020年初頭から始まった全世界的なCOVID-19の嵐もようやく峠を越し、2023年5月から第5類に緩和され、少しずつ社会がコロナ前に復して来たなかで、2024年の新春を迎えることになりました。当院ではこの間に総合てんかんセンターを立ち上げ、社会的ニーズの高いてんかん診療の充実を図り、またアフターコロナ時代の診療体制として、5階南病棟を休止として、その分の精神科医療は時代の要請を受けて外来シフトを進めています。脳神経内科の専門外来もますます充実して来ています。

2021年から開始した病院玄関前ロータリーの花壇は、通院患者さんやご家族からも通院前後の眼を楽しませて好評をいただいています。また同年12月からは病院アプローチの木々に初めてイルミネーションが設置され、夕方以降を明るくしてくれています。さらに2022年1月から始まったキッチンカーが毎日の営業となるなど明るい話題が沢山出てきました。同年5月からは待望のシャトルバスの運行が始まり西武線萩山駅とJR新小平駅と当院の間を結んで患者サービス向上に貢献しています。

病院の新しい専門外来として始まったパーキンソン病専門外来やALS専門外来、SCD/MSA専門外来、めまい・しびれ外来、腰痛・膝痛外来なども充実してきており、2023年4月からは手足の力を増強するロボットスーツHAL (Hybrid Assistive Limb) が整形外科と身体リハ科の共同治療機器として本格運用も始まり、肢体不自由などの症状に画期的な効果が期待されています。新しい変化を新しい力に変えて、当院が皆様と共にますます発展しますよう一緒に頑張っていきましょう。



ゲノム診療部



ゲノム診療の現在と未来

近年のゲノム診療の発展には目を見張るものがあります。ヒトゲノムが解読されてから20年が経ちましたが、その間ゲノム解析能力の驚異的な向上も相まって、ゲノムレベルでの疾患の解明は飛躍的に発展しています。実臨床においても、様々な場面でゲノム情報が診療に活用されるようになってきました。特に、2023年6月9日に、世界最高水準のゲノム医療を実現させ、国民が広く恩恵を享受できることを理念に掲げた「ゲノム医療推進法」が成立し、国としてゲノム医療を推進する方針が明示されました。本法成立を契機に、本邦におけるゲノム診療のますますの発展が期待されます。

特に精神・神経領域はゲノム診療の需要の最も高い分野の一つです。他の分野と比較して遺伝性疾患の占める割合が多く、診断確定の為に遺伝子検査が必須である疾患も少なくありません。注目すべきことに、脊髄性筋萎縮症や家族性アミロイドポリニューロパチーなどのように、診断確定が根本治療に直結する遺伝性疾患も増えてきました。今後さらに根本治療可能な遺伝性疾患が増えてくるものと考えられ、遺伝子検査による診断確定の必要性が高まることは確実です。

一方、ゲノム診療においては、遺伝学的情報のもたらす心理的な影響にも十分配慮することが必要です。



特命副院長・脳神経内科診療部長
ゲノム診療部長 高橋 祐二

例えば遺伝性疾患の患者さんはお子さんに伝わりリスクを心配されていたり、ご家族の方もご自分が罹患する可能性について思い悩まれていたりします。そういった患者さん・ご家族の心情に寄り添ってより良い方向性を希求していくためには、遺伝カウンセリングがきわめて重要な役割を果たします。

NCNPは、これまでも「未診断疾患イニシアチブIRUD」による希少難病の診断精度向上、「運動失調症の患者レジストリJ-CAT」における脊髄小脳変性症の原因遺伝子解析など、多くのゲノム診療プロジェクトの中心的な役割を果たしてきました。さらに、当院の遺伝カウンセリング室は長きにわたる伝統があり、この領域の指導的な立場を担っています。そういった実績を基盤として、NCNPにおけるゲノム診療をさらに発展させることを目的に、2023年4月よりゲノム診療部が発足致しました。遺伝子検査による診断確定、確定診断に基づく根本治療、遺伝カウンセリングなど、精神・神経領域のゲノム診療のハブとなるべく奮励努力して参りたいと考えております。「遺伝子検査を何処でやっているのか分からない」「患者さんのご家族から遺伝のことについて相談された」など、「遺伝」「ゲノム」関連でお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

身体リハビリテーション部

NCNP病院
各部門
紹介

身体リハビリテーション部長 原 貴敏

包括的リハビリテーションを実現します。



身体リハビリテーション部は、神経・筋疾患を中心に幅広い疾患に対してリハビリテーション治療を提供しております。運動障害の他に、呼吸機能障害、嚥下機能障害、構音・発声障害、高次脳機能障害などに対してリハビリテーションを実施しています。また患者さんの社会参加、就学・就労の支援やアドバイスも行っています。当科独自の治療として、痙縮に対する神経ブロックや装具療法、車椅子や補装具の作成なども実施しております。ニューロリハビリテーション外来では、麻痺や歩行の障害に対して、三次元動作解析装置、表面筋電図などの最新の機器を用い患者さんの個々の状態に応じた治療アプローチを決定していく取り組みを行っております。



精神リハビリテーション部

精神リハビリテーション部長 吉村 直記

患者さんの社会復帰に向けて



精神リハビリテーション部は入院、外来の作業療法(OT)と精神科デイケアから成ります。外来OTには、週1回参加できる患者さんを対象とした2つのプログラムがあります。「移行ショートケア」はデイケアや地域へステップアップすることを目指したプログラムです。活動と休息のバランスを整え行動活性化を目指す「からだケア」と、心理社会的療法を取り入れた「こころケア」を行っています。「専門ショートケア」は、当院の専門疾病センターと連携した疾患(てんかん、薬物依存、睡眠)に特化したプログラムです。

精神科デイケアは、週2日以上参加できる、年齢が60歳までの患者さんが対象です。プログラムでは再発防止のために病気のことを学びながら、対人関係スキル向上のための交流や、生活リズム改善を目指した運動などに参加します。プログラムを通じて、2年間を目途に社会復帰(作業所など院外のリハビリ施設の利用、復学、復職など)することを目標としています。

新しいプログラムがはじまっています!

認知行動療法センターの協力を得て、「こころケア」のプログラムが始まりました。リハビリを目指す認知療法“CT-R”をベースに、これまで行っていたマインドfulnessUPプログラムの内容や“セルフコンパッション”“ポリヴェーガル理論”などの要素を取り入れ、こころをいたわる方法を学び、体験しながら身に付けることができます。

認知症センター

認知症治療の新時代の幕開け

認知症センター長
司法精神診療部 医長 大町 佳永



認知症センターでは、認知症の早期発見のための検診、新薬開発のための治験、診断や予防、ロボットを用いた行動・心理症状への対応といった様々な臨床研究に取り組んでいます。「もの忘れ外来」では、脳神経内科医と精神科医が、それぞれの専門分野を活かして、認知症をもたらす疾患の診断と治療、行動・心理症状等への対応を行っています。また、看護師とソーシャルワーカーが、病院への受診や介護の困りごと、介護保険などの利用について相談をお受けしています。2024年3月2日には、市民公開講座「知って、寄り添う 認知症講座」を

開催いたします(写真)。2023年は、認知症になっても希望を持って暮らせる社会を作るために必要なことを定めた「認知症基本法」が成立し、アルツハイマー病の新たな治療薬が承認されました。さあ、新たな時代の幕開けです。認知症センタースタッフとかわいいロボット達がお待ちしておりますので是非ご相談ください。



専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。
診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

睡眠障害センター

睡眠障害センター センター長
臨床検査部 睡眠障害検査室 医長 松井 健太郎

専門性の高い睡眠医療を提供いたします



睡眠障害センターは、様々な睡眠の悩みをお持ちの方を全国から受け入れており、昨年度は600名近くの新規患者さんが受診されました。外来診療、専門的な検査、入院治療を実施可能な体制を整えて専門性の高い睡眠医療に取り組むとともに、抑うつ症状への速やかな効果が期待される覚醒療法(修正型断眠療法)プログラムなど、最新のエビデンスに基づいた介入も実施しています。

- ナルコレプシーを含む中枢性過眠症の診断・治療
- 夜間の異常行動を生じる睡眠時随伴症の診断・治療
- 睡眠・覚醒リズムの是正を目的とした入院治療
- 初期治療で改善しない不眠症状への対応

眠りと目覚めのコラム

気分障害に対する新しい治療法の可能性
「覚醒療法」のご紹介

「眠りと目覚めのコラム」連載中!

センター年報 Annual Report 2022-2023を発刊しました。 広報室 川嶋 哲子

病院・研究所で取り組んでいる医療・研究の最前線や、センターで行っている幅広い活動がわかる年報を発行しました。ぜひご一読ください。センターのホームページから電子ブックでの閲覧、またはPDF版をダウンロードしてご覧頂けます。



PDF版 電子ブック

選定療養費の改定について

財務経理部医事課長 藤山 大輔

一部の病院に外来患者が集中し、患者さんの待ち時間や勤務医の外来負担が増加しているといった課題に対応するため、まず地域のクリニック等を受診し、必要に応じて専門的な病院に紹介を受ける等、医療機関の機能・役割に応じた適切な受診を推進することを目的に「紹介受診重点医療機関」が制定され、当院も選定されました。

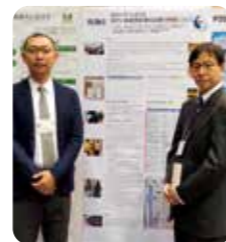
これに伴い、令和6年1月1日から選定療養費を5,500円から7,700円に改定することになりました。

趣旨をご理解いただき、引き続き患者さんを御紹介下さいますようお願いいたします。

「第77回国立病院総合医学会」にて、障がい者雇用部署(総務課業務支援室)の設置について発表。同時にベストポスター賞を受賞。 総務課業務支援室 岸 清次

2023年10月21日(土)、広島県立総合体育館にて「当センターにおける障がい者雇用部署の設置と特徴について」演題発表いたしました。座長さんからは、NHO(国立病院機構)の現状として機構内各施設の障がい者雇用推進が現課題であることから、今回の発表が今後の推進につながるもののご意見を頂くとともにベストポスター賞を頂きました。

今後、当センターの障がい者雇用の実際、取り組みを情報発信するとともに、NHO障がい者雇用推進に向けた発表内容となりました。



「コミュニティスペース むさしの杜」ひとりで過ごす 誰かと過ごす 一息つく ほどほどの距離に人がいる 総務課業務支援室

7月にコミュニティスペース「むさしの杜」がオープンしました。患者さん、ご家族、スタッフの皆さんたちが立ち寄りほっとしてできるように、作品展示などで皆様にご参加いただけるように、自然のある当センターらしい場所になりました。お食事などの提供はしておりませんが、持ち込んで召し上がっていただくことができます。たくさんの方にご利用いただきうれしく思っております。

むさしの杜は、業務支援室という障がい者雇用の部署が担当しています。患者さんの思いや苦勞がわかるそんな部署です。

あわせてどうぞよろしくお願いいたします



むさしの杜 年末年始の展示風景

ご存じですか? NCNP 及び NCNP 病院 公式アカウント

ぜひ、フォロー・チャンネル登録をお願いします!!

Twitter: https://twitter.com/NCNP_PR

YouTube: <https://www.youtube.com/user/NCNPchannel>

Instagram: https://www.instagram.com/ncnp_pr/ NCNP公式

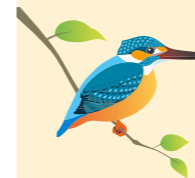
Instagram: https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室

NCNP公式 院長室

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- 「福井県摂食障がい支援拠点病院」が新たに指定! 全国で6カ所目、北陸地方では2カ所目の支援拠点病院
- 再発しない多発性硬化症の分子基盤を解明
- デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療が大きく前進 ~デュアルターゲティング核酸医薬(NS-089/NCNP-02)の医師主導試験の元となる結果を発表~
- 高齢骨格筋で筋幹細胞の数が減少するメカニズムを解明 ~NAD+添加によるミトコンドリア機能活性化が筋萎縮予防の鍵~
- 運動時に手足の感覚を取捨選択する仕組みを解明 ~シナプス前抑制の脊髄内での機能を霊長類において証明~
- 難治てんかん焦点の新しいバイオマーカー「発作時DC電位」世界で初めて時定数2秒でも有用であることを明らかに
- 記憶促進と統合失調症様行動抑制を発見 一硫化水素とポリサルファイドの神経伝達物質放出制御を明らかに

Nature



NCNP四季便り

情報システム顧問 永井 秀明

ネムノキ(合歡の木)

ネムノキというと、夏に咲く赤いポンポンのような花を思い浮かべます。

花からは想像しにくいのですがマメ科なのです。

下の写真は落ちた実の鞘を日に透かして見たところです。豆です。

この鞘が冬になると地面に落ちて風に飛ばされ、たどり着いた新天地で芽をだします。

病院横の駐車場の南側に、大きなネムノキがあります。

病院前のロータリー内に生えているネムノキは、たぶんその子供です。

